

川崎市少年野球連盟 学童部
役員、所属チーム関係者 各位

落雷事故防止対策の徹底について

川崎市少年野球連盟 学童部
会 長 三浦 雅昭

川崎市少年野球連盟 学童部
安全委員会
委員長 鈴木 啓之

日頃より、川崎市少年野球連盟 学童部(以下川少連と称す)の活動に対し、ご理解とご協力を頂きまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、既にテレビ、新聞等で報道されていますが、8月6日(水)愛知県の私立高校で野球の練習試合中に選手が落雷を受けて死亡するという悲しい事故が発生しました。落雷は、身近に起こる自然災害で、落雷による死亡事故は、国内で年間平均 15 件程度発生しています。しかし、その殆どが注意すれば防げた事故とされています。今回の愛知県の私立高校で発生した落雷事故も幾つかの重大事象を見逃したために発生した事故と言えます。この事故を教訓に川少連は、落雷事故防止の基本方針をまとめました。連盟関係者、指導者の方は、試合または練習に関係なく屋外での活動については、落雷事故防止対策の徹底をお願いします。

1. 愛知県の私立高校で発生した落雷事故の状況

8月6日(水)午後1時15分ごろ、愛知県扶桑町の私立S高校から“野球グラウンドで同校の野球部投手(2年生A選手)がマウンド上で落雷を受けた”と119番通報があった。当時、同校のグラウンドでは野球部の練習試合中で、A投手は意識不明のまま、救急車で病院に搬送された。しかし、医師団の懸命な治療、ご家族の祈る気持ちも届かず、7日(木)未明に多臓器不全で死亡した。

警察や関係者によると、練習試合は午後0時40分に始まったが、雨のため午後1時ごろ一旦中断した。約10分後に青空が広がったため(*1)、試合を再開した直後に落雷があった。その時、グラウンド内には対戦相手の選手、保護者を含め40人以上居たが、A選手以外に怪我人は居なかった。また、野球部関係者は“グラウンドを囲むネットには12本の避雷針を設置していた(*2)。試合を再開した時は、遠くで雷鳴が聞こえていたが(*3)、青空だったので、まさか雷が落ちるとは思わなかった”と説明している。なお、愛知地方気象台によると“6日の朝から愛知県全域に雷注意報が出ていた(*4)。事故当時、扶桑町を含む愛知県尾張西部地域は大気の状態が不安定で、同町付近では、午後1時ごろから急速に雷雲が発達していた(*5)”と説明している。

【重大事象の見逃し項目】

- (*1) 雷鳴が聞こえなくなってから30分間は落雷の可能性がある。
- (*2) 周囲に避雷針が設置されていても、広いグラウンドの中では人間が一番落雷を受けやすい。
- (*3) 微かに雷鳴または雷光を確認したら、その場所は、既に落雷を受ける危険性がある。
- (*4) 雷は、狭い範囲で短時間で発生する気象現象のため、常に天気情報の確認が必要である。
- (*5) 雷雲(積乱雲)がもくもくと成長するのが見えたら、数分後に落雷の危険がある。

2. 川少連の落雷事故防止の基本方針

川少連の役員、指導者など関係者は、試合および練習中グラウンドの上空に雷雲が発生し、雷雲が急激に成長して周囲が暗くなる。また、遠くで雷鳴や雷光を確認するなど落雷の予兆があった場合、屋外での活動を即時中止し、速やかに関係者全員を安全な場所に避難させること。また、活動の再開は、雷鳴や雷光が確認されなくなってから30分以上経過し、且つ、気象庁や関係機関のウェブサイト(*6)(*7)等で、雷注意報が発令されていないことを確認後、再開すること。更に、降雨がなく、上空が晴れている状態でも雷鳴や雷光が確認された場合は、活動を再開しないこと。なお、落雷発生時の避難場所は、各区で使用している球場やグラウンドに特異性があるため、突然変化する天候に対応できるように使用場所ごとに事前に明確にすること。

(*6) 気象庁レーダーナウキャスト <http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

(*7) 東京電力の雨量・雷観測情報 <http://thunder.tepco.co.jp>

3. 緊急避難時の心得

- (1) 鉄筋コンクリートの建物、戸建住宅など本格的な木造住宅に避難する。
ただし、避難時は、テレビ、電気器具、電灯線、電話線、建物の柱、壁、天井、ガス管、水道管、ガス栓などから1m以上離れること。
- (2) 屋根が金属製自動車の中に避難する。
ただし、窓は閉め、車体、ハンドル、電装機器には触れないで手は膝の上に置くこと。
- (3) 高架橋の下に避難する。
ただし、橋脚、壁、天井から1m以上離れる。また、河川の増水に注意すること。
- (4) テントの中は、避難場所にしない。テントに落雷すると側撃(*8)によりテントのポールから人に電流が流れるため危険が高い。

(*8) 雷が樹木等に落雷すると雷の電流は、大地に流れる。その電流が樹木等の近くの人や物に流れる現象。

- (5) 樹木や樹木の小枝から4m以内に近づかないこと。樹木に落雷した時、近くに人がいると側撃を受ける危険が高い。
- (6) 雷は高い位置に落雷するため、雨が降っても傘はささないこと。
- (7) バットなど長い物は、体から離し地面に置くこと。
- (8) 周囲に障害物のない土手の道を自転車やオートバイで避難することは、落雷を受ける危険が高いため、実施しないこと。
- (9) 金属類を身に付けていても雷を引き寄せない。金属類に気を払うより、一秒でも早く安全な場所に避難すること。
- (10) 避難時の姿勢は、地面に寝そべらず、両足の間隔を狭くしてしゃがみ、手で両耳を塞ぐこと。
- (11) 落雷後、次の雷が落ちてこない安全時間はない。したがって、続けて落雷する可能性があるため注意が必要。

4. 参考文献

- (1) 気象庁ホームページ 雷から身を守りには
- (2) 埼玉県スポーツ科学委員会 落雷事故対策マニュアル
- (3) あおば屋ホームページ 雷の知識(雷対策・落雷対策) など